

「なにが、ちがう？」

新年度がスタートし、3ヶ月近くが経過しました。この間、様々な状況の変化を経験した方は多いのではないのでしょうか。

今回は、仮の事例を基に、子どもの姿が変容した理由を考えてみたいと思います。



事例(仮)

前年度、A さん(以下本児)は授業中の私語や離席、教室からの飛び出し、教師や友だちへの暴力・暴言が多く見られていた。担任は、授業を進めることと、本児への対応の両立に難しさを感じ、悩んでいた。

新年度、担任が変わった。本児は少しずつ授業へ参加する場面が増え、教師や友だちと穏やかにかかわることのできる場面も増えている。



前年度の担任も、学級や本児のことを思い、一生懸命対応していました。前年度と新年度、「なにが、ちがう」のでしょうか。



…実は、こんな「ちがい」がありました。

	前年度	新年度
授業中の対応	・私語や離席があった際に、その都度、担任、管理職、支援員が個別に対応していた。	・発言や離席に対するルールと、そのルールを設ける理由を学級全体に周知した。 ※もともと活発・活動的な学級だったため、「着席するときと離席して良いとき」「発言のタイミングや方法」が本児には理解できていなかったことがわかった。
行動への対応	・教室からの飛び出しに対して、安全面も考え、教室へ戻るよう促していた。 ・暴言・暴力については、その都度、行動を止めるよう、個別に指導していた。	教室からの飛び出しに対して、行動の理由を本児に確認をした上でどう行動するとよいか一緒に考えた。 ※「校庭に飛んできたビニールごみを拾いたかった」「友だちにきれいなちょうが飛んでいることを教えてあげたかった」など、行動に理由があり、それを確認されないまま制止されることが暴力や暴言につながるようになった。

環境(物的・人的)のちょっとした変化で、子どもたちの姿が大きく変化することがあります。子どもたちの行動を「なぜ？」と考えることが、子どもたちをより知ることや、より良い支援・かかわりにつながるきっかけになります。

子どもたちの変化を前向きに捉え、その姿から多くのことを得る視点を大切にしたいと思います。

一方で、年度の切り替わりを必要な支援の切れ目にしないために、個別の教育支援計画を活用した気づきの整理や、引継ぎも確実に行う必要があります。

